

施策番号	0103		
施策名	ごみを出さない循環型社会の構築		
概要	循環型社会の構築のために、ごみを出さない2Rの定着、ごみの分別や適正な排出、資源物の回収及び廃棄物発電など、ごみの減量と再利用を促進する。		
担当局・部室	環境政策局・循環型社会推進部, 適正処理施設部	共管局・部室	
上位政策	1 環境		
施策に関する主な分野別計画等	京都市環境基本計画2016～2025, 京都市循環型社会推進基本計画 (2015-2020)		

施策の評価

1 客観指標評価

指標名	平成30年度	令和元年度	令和2年度評価					
			前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標のウエイト
1 一人一日当たりのごみの排出量 (グラム)	b	b	764	762	741	97.2%	b	1.00
2 ごみ焼却量 (トン)	b	b	38.3万	38.2万	36.2万	94.5%	b	1.00
3 ごみ1トン当たりの発電量(kWh/t)	a	a	369	402	440	91.4%	a	1.00
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-
客観指標総合評価	a	a					a	

2 市民生活実感評価

設問	平成30年度	令和元年度	令和2年度						令和2年度※	
			評価	そう思う	どちらかと言うとそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言うとそう思わない	そう思わない		有効回答者数
1 マイバッグやリサイクル製品など、ごみを出さないようなくらしと事業活動が広がっている。	a	a	a	161	360	125	42	13	701	-
				23.0%	51.4%	17.8%	6.0%	1.9%		
2 ごみを分別して出せる拠点が身近にあり、ごみのリサイクルが進んでいる。	a	a	a	174	328	123	48	31	704	-
				24.7%	46.6%	17.5%	6.8%	4.4%		
3 -	-	-	-							-
4 -	-	-	-							-
5 -	-	-	-							-
市民生活実感調査総合評価	a	a								-

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により調査を一時休止しています。

＜総合評価＞

平成30	A	令和元	A	令和2	A	施策の目的が十分に達成されている
重み付け	<input checked="" type="checkbox"/> 客観指標	ごみの発生抑制や再利用，資源物の回収及びエネルギー回収等，すぐには市民の実感につながりにくい部分が多いため，客観指標に重みを置く。				
	<input type="checkbox"/> 市民の実感					

＜原因分析＞

客観指標総合評価

- b評価以上であり，施策の効果が客観指標に表れている。
- c評価以下であり，次の原因が考えられる。

市民生活実感調査総合評価

- b評価以上であり，施策の効果が市民の実感に表れている。
- c評価以下であり，次の原因が考えられる。

今後の方向性の検討

＜この施策を構成する事務事業＞（令和元年度又は令和2年度新規事業）

	事業名	事業費の状況(千円)		令和2年度事務事業 評価結果における 目標達成度評価	担当局
		令和元年度 決算額	令和2年度 予算額		
1	使い捨てプラスチック削減推進事業	17,630	43,418	良い	環境政策局
2	廃棄物計量装置導入支援事業	0	12,765	-	環境政策局
3					
4					
5					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

＜今後の方向性＞

- ・「2R」と「分別・リサイクルの促進」の2つを柱とするごみ減量施策を推進し，資源・エネルギーの有効利用と環境負荷の低減，さらには「もったいない」や「しまつ」といった京都らしいライフスタイルなどの定着を図り，市民，事業者とともに，全国のモデルとなる持続可能な循環型社会の構築に取り組む。
- ・クリーンセンターの施設保全計画を更新し，適切な補修等の整備を行うことで，安定したごみ焼却を行い，発電効率の向上に努める。
- ・以上のことにより，客観指標の目標達成と市民生活実感の維持，更なる向上を図り，ごみを出さない循環型社会の構築を推進する。また，令和2年度中に次期「京都市循環型社会推進基本計画」を策定に向け，更なる取組の検討を進めている。

施策名	0103	ごみを出さない循環型社会の構築
-----	------	-----------------

指標名	一人一日当たりのごみの排出量（グラム）	
-----	---------------------	--

担当課	ごみ減量推進課	連絡先	213-4930
-----	---------	-----	----------

1 指標の説明

一人一日当たりのごみの排出量(市受入量)

2 指標の意味

循環型社会の構築に向けた「ごみの発生抑制、再使用（2R）」の推進状況を示す指標

3 算出方法・出典等

出典：事業担当課調べ

4 数値

数値	前回数値	最新数値	推移	目標値		達成度
	平成30年度	令和元年度		数値	根拠	
764	764	762	2グラム減	741	令和2年度の数値目標達成のために当年度達成すべき数値	97.2%

数値	全国順位	中長期目標			根拠
		数値	目標年次	達成度	
-	-	730グラム	令和2年度	95.6%	京都市循環型社会推進基本計画（2015-2020）

備考	
----	--

5 評価基準

最新値－目標値が、
a：0グラム以下
b：0グラム超～46グラム以下
c：46グラム超～92グラム以下
d：92グラム超～139グラム以下
e：139グラム超

6 基準説明

当年度の目標値（741グラム）を達成した場合をa、京都市循環型社会推進基本計画の基準年度（平成25年度）のごみ量（880グラム）を超えた場合をeとし、b～dは等間隔（約46グラム間隔）で基準を設定。評価基準は、毎年、当年度の目標値により変更される。

7 評価結果

平成30	令和元	令和2
b	b	b

指標名	ごみ焼却量（トン）	
-----	-----------	--

担当課	ごみ減量推進課	連絡先	213-4930
-----	---------	-----	----------

1 指標の説明

クリーンセンターにおけるごみの焼却量

2 指標の意味

循環型社会の構築に向けた「ごみの発生抑制、再使用（2R）」と分別・リサイクルの推進状況を示す指標

3 算出方法・出典等

出典：事業担当課調べ

4 数値

数値	前回数値	最新数値	推移	目標値		達成度
	平成30年度	令和元年度		数値	根拠	
38.3万	38.3万	38.2万	0.1万トン減	36.2万	令和2年度の数値目標達成のために当年度達成すべき数値	94.5%

数値	全国順位	中長期目標			根拠
		数値	目標年次	達成度	
-	-	35万トン	令和2年度	90.9%	京都市循環型社会推進基本計画（2015-2020）

備考	
----	--

5 評価基準

最新値－目標値が、
a：0トン以下
b：0トン超～2.6万トン以下
c：2.6万トン超～5.2万トン以下
d：5.2万トン超～7.8万トン以下
e：7.8万トン超

6 基準説明

当年度の目標値（36.2万トン）を達成した場合をa、京都市循環型社会推進基本計画の基準年度（平成25年度）のごみ焼却量（44万トン）を超えた場合をeとし、b～dは等間隔（約2.6万トン間隔）で基準を設定。評価基準は、毎年、当年度の目標値により変更される。

7 評価結果

平成30	令和元	令和2
b	b	b

施策名	0103	ごみを出さない循環型社会の構築				
指標名	ごみ1トン当たりの発電量(kWh/t)					
担当課	施設管理課	連絡先	212-9820			
1 指標の説明						
クリーンセンターにおけるごみ1トン当たりの焼却熱等による発電量						
2 指標の意味			3 算出方法・出典等			
「適正処理とエネルギー回収の最大化」に向けて、ごみ1トン当たりの発電量を高め、天然資源の消費抑制を図る取組を示す指標			算出方法：全クリーンセンターにおける発電量÷焼却量 出典：事業担当課調べ			
4 数値						
	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	平成30年度	令和元年度		数値	根拠	達成度
数値	369	402	33kWh/t増	440	今後の焼却等処理量及び処理施設における技術の発展を踏まえ、令和2年度に目指すべき値(450kWh/t)に対する当年度の計画値	91.4%
	全国順位	中長期目標			備考	
		数値	目標年次	達成度		根拠
数値	-	450kWh/t	令和2年度	89.3%	京都市循環型社会推進基本計画<2015-2020>で掲げるごみ量等の目標数値から設定	
5 評価基準		6 基準説明		7 評価結果		
最新数値の目標値に対する達成度が a：90%以上 b：90%未満～80%以上 c：80%未満～70%以上 d：70%未満～60%以上 e：60%未満		全クリーンセンターにおける発電量を焼却量で除した値で評価する。発電量はごみ質により影響を受けるほか、各クリーンセンターの発電効率は均一ではないため、目標の90%以上を達成したときをaとし、以下10%刻みで基準を設定した。		平成30	令和元	令和2
				a	a	a